

平成27年度第2回京都市民健康づくり推進会議摘録

1 開催日時

平成27年8月24日（月）午後2時30分～午後4時

2 開催場所

本能寺文化会館5階 醍醐ホール

3 出席者

京都大学大学院医学研究科教授	中山 健夫
京都府立医科大学大学院医学研究科 准教授	栗山 長門
市民公募委員	駒井 一正
市民公募委員	内貴 多枝子
京都市地域女性連合会副会長	加藤 アイ
京都市PTA連絡協議会副会長	岡 千栄子
京都市保健協議会連合会副会長	山内 寛
すこやかクラブ京都（（一社）京都市老人クラブ連合会）	川島 康伸
（公社）京都市保育園連盟理事	嶋本 弘文
（公社）京都市私立幼稚園協会副会長	山羽 学天
京都市小学校長会会長	林 正幸
京都府私立中学高等学校連合会事務局長	室 保次
京都大学健康科学センター助教	岡林 里枝
京都労働者福祉協議会総括部長	岡田 信江
（一社）京都府医師会理事	武田 貞子
（一社）京都府歯科医師会理事	岸本 知弘
（一社）京都府薬剤師会専務理事	茂籠 哲
（公社）京都府栄養士会会長	岸部 公子
（公社）京都府歯科衛生士会会長	白波瀬 由香里
一般財団法人京都予防医学センター係長	阿部 圭子
（特非）日本健康運動指導士会京都府支部副支部長	並河 茂
京都府国民健康保険団体連合会事務局次長	長谷川 敏彦
健康保険組合連合会京都連合会SGHG常務理事	新谷 元司
全国健康保険協会京都支部企画総務部長	山上 義孝
京都市保健所伏見保健センター長	里村 由紀子
京都市衛生環境研究所所長	川上 雅弘
京都市こころの健康増進センター相談援助課長	坂下 純子

京都市健康増進センター所長		板垣 泰子
事務局	保健医療・介護担当局長	居内 学
	医務監	谷口 隆司
	保健衛生推進室長	松田 一成
	保健担当部長	吉山 真紀子
	保健医療課長	志摩 裕丈

4 摘録

【開会の挨拶】 居内保健医療・介護担当局長

○事務局（志摩保健医療課長）

本日はお忙しい中、平成27年度第2回京都市民健康づくり推進会議に御出席いただきまして、ありがとうございます。

開会に当たりまして、保健福祉局保健医療・介護担当局長の居内から御挨拶を申し上げます。

○居内保健医療・介護担当局長

京都市保健福祉局で保健医療・介護担当局長しております居内でございます。

残暑が厳しい中、第2回の健康づくり推進会議に出席いただきまして、ありがとうございます。

今年の夏は、大変暑い日が続きました。そのような中、熱中症で救急搬送をされた方が去年に比べて非常にたくさん多く、昨年8月末の集計で420名の方が救急搬送されたわけですが、今年は8月の中旬の集計で、700名を超える方が搬送されました。おそらく今年の8月末まで集計しますと、800名を超えるのではないかという勢いで搬送された方がいらっしゃると思います。中には不幸にして亡くなられた御高齢の方もいらっしゃいます。これからもしっかりと残暑の中ではありますが、気を付けて乗り切っていく必要があります。皆様には御自愛お願い申し上げます。京都市では、熱中症にしっかりと予防、注意を払うことということで、声掛け運動させていただいております。熱中症に罹る過半数の方が65歳以上の高齢の方という統計もございます。身の回りの方、一人暮らしの方などに声掛けをしていただいて、しっかりと予防するというお願いができましたらと思っております。

さて、この会議では今年度「健康長寿のまち・京都」の取組を進めていこうということが大きなテーマでございまして、この実現に向けて、一人一人の市民の皆様が自ら健康づくりに取り組んでいただくということを大きなテーマにしていこうということで、前回の1回目の会議の開催をさせていただいた後も引き続き、色々な取組について検討を進めさせていただいております。

本日は現時点での私どもの考え方等につきまして、大きく2つのお話をさせていただきたいと思っております。一つはオール京都での健康づくり活動を展開するための市民の運動組織、大きな仕組み、集合体を作っていく必要があるのではないかということでございます。そのことと関わりまして、できればこの秋の段階でそれをスタートさせていただきたいというような取組を皆様と一緒に進めることができればと思っております。

2つ目には、来年度には、健康寿命の延伸に向けての事業についての御議論をお願いできればと思っております。いずれにしても「市民の皆様が主役」、自分の健康づくりを積極的に進めていく、行政はもちろん、各種団体の皆様にもそれぞれの役割を積極的に一丸となって、それぞれの役割を担っていただく、市民の健康づくりを進めていく、そういうことを進めていきたいと考えております。本日の会議を通して、忌憚ない意見をいただき、豊かなものにできればと思います。簡単ではございますが、挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○事務局（志摩保健医療課長）

ありがとうございました。本日の会議の終了予定ですが、午後4時を目途としておりますので、御協力いただきますようよろしくお願いいたします。また、本日の出席者の皆様につきましては、お手元の資料2出席者名簿、資料3の座席図で御確認いただきまして御紹介に代えさせていただきます。資料1には、推進会議の構成団体の名簿をお付けしておりますので御参照ください。それでは、以後の議事の進行については、本会議の議長である中山先生をお願いしたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

【報告】市民主体の健康づくり活動の展開に向けて

○中山議長

京都大学の中山健夫です。よろしくお願いいたします。今回の会議の進行をおおせつりました。早速ですが、報告案件、「市民主体の健康づくり活動の展開」ということで、事務局から御説明をお願いしたいと存じます。よろしくお願いいたします。

○事務局（濱口保健医療課課長補佐）

それでは、お手元の資料5「市民主体の健康づくり活動の展開に向けて」を御覧ください。

前回の推進会議でもお話しましたが、「健康長寿のまち・京都」の実現に向けましては、市民の皆様が主体となり、健康づくり活動を展開いただくことが重要であると考えております。

そのため、幅広い市民団体、企業等により構成いただく「市民運動組織」の立上げを想定しております。まずは今年の秋に、健康づくりの活動を全市的な運動として展開していくために、賛同いただける団体、代表者、市民の方などの皆様に市民力の結集をいただきまして、その準備段階として、「準備会」を設置いただくことを考えております。その機会としてのキックオフイベントとして、健康づくりの機運の醸成に向けたイベントの開催を想定しております。

それでは、順に説明をさせていただきます。まず資料の中の「1「市民運動組織」の立ち上げ（案）」を御覧ください。

(1)の趣旨でございますが、市民ぐるみの運動としての仕組みづくりといたしまして、「健康長寿のまち・京都」の趣旨に賛同する様々な市民団体、民間企業等、あらゆる「市民力」を結集いただくことで「市民運動組織」を立ち上げてまいりたいと考えております。そのうえで、それぞれの組織の中での人とのつながり、仲間同士の声掛けによりまして、市民の皆様が主体となった健康づくりを進めていただきたいと考えております。

そのために、「(2)「市民運動組織」準備会の設置」でございますが、「市民運動組織」の立ち上げに向けましては、市民団体等の皆様が主体的な役割を担っていただくという前提で、広がりのある取組としていただくことから、まずは、今年の秋、準備会を組織いただき、皆様から更なる賛同団体の拡充に向けた呼びかけ、働きかけをお願いしていただきたいと考えております。

(3)の市民運動組織の活動内容としては、様々な健康づくりの取組に関する普及啓発、情報提供などを通しまして、市民の皆様の健康づくりの意識醸成を図るとともに、積極的に健康づくりの取組に関する御提案、実践等をいただくなど、市民主体の健康づくりを展開していただきたいと考えております。

そのため、(4)の今後の進め方でございますが、市民運動組織の正式発足に向け、準備会からの呼び掛けなど、この推進会議のメンバーの方々に御協力をいただきたいと考えております。

裏面にまいります。(1)の目的については、「健康長寿のまち・京都」の実現に向け機運を高め、市民の方一人ひとりの健康づくりの意識を醸成するために開催することを考えております。

日時、場所につきましては、現在、この秋に「みやこめっせ」で開催することで検討しております。

(3)の内容についてですが、市民運動組織準備会の設立について発表させていただきますとともに、準備会のメンバーの方から健康づくりに向けた決意宣言、決意表明等をいただきたいと考えております。そのうえで、健康づくり運動体験やウォーキングイベント、また、準備会メンバーの方々による健康づくり普及啓発・体験等ブースの出展などを現在検討しております。

このあたり、これから予算要求等の手続きもございますので、市として検討を進めているところでございますが、推進会議の皆様から様々な御意見、御質問を頂戴できればと考えております。

よろしく願いいたします。

○中山議長

御説明ありがとうございました。御意見をお伺いする前に私から確認ですが、市民運動組織について、例えば1年に1回、イベントをやるというイメージなのか、恒常的に何かの取組をするような空気を作っていくのか、どういうイメージになりますでしょうか。イベント的なものか、継続的なものをやろうとされるのか。

○事務局（志摩保健医療課長）

市民運動組織ですが、何か一つ大きなイベントをやるためにお集まりいただく、いわゆる実行委員会方式ではなく、恒常的に取り組んでいく、各団体に日頃から取り組んでいただくことも含めた、大きな組織にしていきたいと考えております。事務局の考えとして、お受け止めいただき、それに対する御意見も含めて頂戴したいと思っております。

○中山議長

御意見をいただくときに、それぞれの構成団体に健康づくり活動の骨格となる御提案をいただきたいということでよろしいでしょうか。

○事務局（志摩保健医療課長）

よろしく願いいたします。

○中山議長

それでは、事務局に対する御意見、色々な視点があるかと思いますが、御質問、御意見ございましたら、お願いいたします。歯科医師会、岸本先生いかがでしょうか。

○京都府歯科医師会（岸本理事）

御紹介いただきました、歯科医師会の岸本です。よろしく願いいたします。歯科医師会としてどんなことができるかなと考えたときに、私たちの立場は、セルフチェックなどで疾病が起きたと判断したときに頼っていただく場所であると思っております。

京都市としては先ほどの説明になってしまうのかもしれませんが、あまり焦点がぼんやりとしてしまうと、形を立ち上げて実がないということにもなるので、ある程度分野を絞っていただいた方がよいのではないのでしょうか。今年度はこういう分野にフューチャーしていこうということの方が私たちとしてもついていきやすいと思っております。その

あたりも踏まえて、歯科医師会として、運動を始めていく前のセルフチェックみたいなことをやっていきたい、と思います。例えば、心疾患を持っている方は、状態が悪くなってしまうのは元も子もないので、フルマラソンは難しいということになるかと思うのですが、そのような疾患等のチェックとは別に、私としては、「噛める口元ですか」というチェックも運動する上で重要と考えています。今回のお話では、ぜひ「咬合支持域」という言葉を覚えてほしいと思います。人間には奥歯と前歯がありまして、奥歯でしっかり噛めるから仕事もがんばれますし、小学生ではテストの点数も上がる。運動を始める上でも、奥歯でしっかりと噛めている方なのか、そうでない方の場合は、ちゃんと物を噛めるのか、歯がなくても入れ歯やインプラントなどで噛める状態を保っているのか、ということも大切です。「咬合支持域」をきちんと持ったうえで、運動を始めていただくと、より内容が充実すると思いますし、また運動中に不幸にして歯が欠けたりすることもよくありますので、そういったことに対するサポートをとれたらと思っております。

○中山議長

ありがとうございました。今のお話しをお伺いしまして、当面は歩くということが一番身近にあると思いますが、歩くことだけ良いイメージを持つと、展開が限られてしまうかもしれません。歩くときに、歯を関連付けることはすごく面白いかもしれませんね。一つテーマがあって、色んな方々が別の視点を持ち寄って、歩くことを通して色んなことが分かってくるかもしれません。今年は「歩く」というテーマ、それ以降は、別のテーマを作って、色んな方面からまたそこにアプローチしていくこともありかもしれないですね。

今のお話しを踏まえて、市役所のお考えはいかがでしょうか。

○事務局（志摩保健医療課長）

ありがとうございます。健康ということで、あらゆることが関係してくると思いますが、前回の会議でも御報告させていただきましたとおり、本日の会議でも資料6の別紙に、後程の議題で御説明させていただきますが、とりわけしっかり食べて体を動かすということで、食に関係することと、体を動かすことの2点、中でも歩くということは、一番身近のことと考えております。このあたりに絞った何かをできればと考えておりまして、御指摘のテーマを少し絞ってというところはこのあたりかなと思っております。かつ、今おっしゃっていただきました、しっかりと噛むということが運動にもつながるし、食べることにもつながりますし、このあたりで実践したいと思っております。よろしく申し上げます。

○中山議長

今まで血圧を測ったことない人が歩くためにそれを機会に自分の血圧を知ることが大事だと思います。今、食べることの話が出ましたので、栄養士会からお話しただけませんか。

○京都府栄養士会（岸部会長）

食べることは命をつなぐことが必ず付いて回るのですが、食べ方も年齢、健康状態などで全部異なってまいります。予防的に考えていくのか、それとも治療的に考えるのか、絞り方をしていけないといけないと思うのですが、京都市は、予防的なところを中心に考えて、イベントをしようとしているのですか。絞って進めていかないと広がってしまってどうにもならないので、何をしたかわからないことにもなります。また、予防的にも年齢的にも幅がありますので、それこそ離乳期、母乳を飲むことから、噛むことから始まるので、予防的に考えてどういう展開にするのか、焦点を絞った方が、今年は何をしましょうとか、今年はこの年齢を中心にこうしようとか、そのような考えの方が良いのではないのでしょうか。

私たちはどの場面でも適用させていただきますし、毎日の食事を食べる、食べていれば、生きていけるし、水だけ飲んでいても1箇月生きられる、よりよく生きていくために、命をつなぐということは違います。よりよく生きていくためにということを考えておるとお思いますので、それこそ子どもたちを大事にしないと、高齢者になる前に病気になってしまいますし、人生の流れで、今年はどうしましょう、焦点を絞っていただいた方が皆がのっていきやすいと思います。いずれの場面でも協力させていただきたいと思っておりますので、御相談いただけましたらと思います。

○中山議長

全ては食べることからと思います。今の御意見について、京都市どうでしょうか。

○事務局（志摩保健医療課長）

食べるということだけでは絞ったということにならないということだと思います。この点とも関連して、御指摘の点を踏まえて、分かりやすくしていく必要があると思っております。今、御指摘いただきました色んな年齢層の方でかなり異なってこようかと思っております。これは食べることや運動もそうなると思っております。先ほど御覧いただきました、資料6の別紙の②ですが、各世代に応じた取組ということで、幅広い世代の方、皆様に取組んでいただく、各世代に応じた取組を推進していく必要があると思っております。それらを踏まえまして、後程の議題の中で御意見をいただきたいと思っておりますが、御助言、御協力いただきますようぜひよろしくお願い申し上げます。

○中山議長

それでは、薬剤師会からもよろしいでしょうか。

○京都府薬剤師会（茂籠専務理事）

薬局は色々な相談を受けていますので、処方箋に限らず、健康づくりに対して色々な相談を受けています。具体的には行政と連携して、特定健診の実施に関する事、禁煙の取組、認知症への対応もやっています。薬剤師会の普及啓発もありますし、焦点を絞ってやっていただく方が協力できると思います。

○中山議長

確かにそれぞれの団体がかなりの活動をしている。それとの市の今回の動きとの関係はどのようなイメージですか。

○事務局（志摩保健医療課長）

既に健康づくり、健康寿命の延伸、健康づくりに関する取組というのは、意識をしていただいている場合、していただいている場合も含めて、幅広く取り組んでいただいているかと思っています。今日お集まりの団体の皆様は、まさに健康ということをテーマに、それぞれの分野で御活動されておられているかと思いますが、それだけでなく、もっと広い団体にも結び付けて色々なことに関連付けていくことができると思いますので、幅広く取り組んでいきたいと思っています。推進会議の団体の皆様がより幅広い団体に呼び掛けていただいて、大きな市民運動組織にしていければと考えています。

○中山議長

それぞれの団体でされていることを京都市の大きなコンセプトを共有していただき、今までの動きを展開していただくイメージでしょうか。既にされているところはそれで、ということになるかもしれません。保健医療関係は、既に健康づくりに関する動きをされていますけども、そうでない組織には、これを機会に色々な取組に手を広げていただければ、ということですね。分かりました、ありがとうございます。

先ほど歯科の話がありましたが、歯科衛生士会の方からもお願いできますでしょうか。

○京都府歯科衛生士会（白波瀬会長）

歯科衛生士会は、色々な医療団体の中で活動しており、SKYフェスティバル、医療推進団体のフェスティバル、健口体操など、色々な取組をさせていただいています。今回の話は、それプラス、もっと全体的に進めていくということなんですよ。その形として、皆様を巻きこんで進めていくのか、どういった形でしていくのか。私も分かりかねています。京都市がどのような年齢層にどういった形で展開していくのか、という点

を、もう少し詳しく聞かせてもらいたい。どんな形でも私たちも対応していきたいと考えております。

○中山議長

お話しをお伺いして、それぞれの団体にこんなこと、食べることをお願いできないかもしれませんが、提案させていただくことということも面白いかもしれません。言ったこともない専門家がチャレンジするというのも。

○京都府歯科医師会（岸本理事）

元々、生きているイコール健康であり、かつては健康が損なわれるということは死ぬこととも言えました。平均寿命がどんどん上がってきておりますが、歯自体の寿命は60年とされており、永久歯に生えかわるのが10歳前後ですので、70歳にはDNAレベル的には本来失われているというものです。しかし、寿命が長くなってきたときに、丁寧なメンテナンスやケアをすることによって歯の寿命を延ばしている、ということが健康に対する考え方だと思います。

私は、高カロリーを摂って運動をしませんからどんどん太っていくのですが、昔の人は高カロリーを摂取することもなければ、運動もそれなりにしており、健康を維持できていたと思われます。原点に戻ることによって、今私たちが何をやる必要があるのか、おのずと見えてくる気がしますので、そういった観点から、健康に関連する専門職以外の御意見に私たちが合わせていく方が良いのかなと思います。

○中山議長

貴重な御意見をありがとうございます。保健職以外と言うことで、女性連合会の加藤さんからお願いできますでしょうか。専門職に対して、意見があれば。

○京都市地域女性連合会（加藤副会長）

女性会としては、健康のためにすることは決めておりませんが、市民スクール21という学習を10回ほどの講座をすることになっておりまして、一つは健康に関するもので、講師を呼ぶことは1回ですが、講師が言うことを年中続けてやると決めています。

おかげさまで、女性会全員、高齢者ですが、元気にみんな自分の歯で、少し奥が抜けている程度で、年1回、歯科医の方の講演会を聞かせていただいている。いかに歯を磨くことが大切か、そういうところから健康を保持できるのか、全員で順番に聞いたりして、歯のことに关しましても、結核予防に关しましても注意しておりますので、全員元気です。例えば骨粗しょう症の検査に皆が参加して、測ってもらうのが良いですが、時間が掛かってしまい、いつになったら、順番がくるのだろう、順番でいけるような健康づくり体操など行くことで、大きなイベント会場でされるのは良いと思います。

○中山議長

骨粗しょう症の検査をしたというのはどういった集まりなのですか。

○京都市地域女性連合会（加藤副会長）

年間10回くらい学習する市民スクール21の場の中で、骨粗しょう症を検査することがありました。全部の学区がしているわけではありませんけども、各学区の行政の色んなところが健康に関して何らかの形で設けておられます。ずっと続けて健康体操をしている学区もありますし、いつも何らかの形で食事の面でも料理教室とかもやって、食べ物の粕が残らないように、環境に対して少しでもゴミが出ないようになど、色んなことに対し、前向きにやっております。

○中山議長

地域の女性の集まりは学区単位なんですか。

○京都市地域女性連合会（加藤副会長）

学区，行政単位，京都市の各行政区，全部入っています。

地域女性会は何万もおりまして、学区によって、やっている内容が違いまして、行政の全部の女性会が同じことをしているわけではありません。学区単位で会員310名ほどおります。伏見などは600名ほどおりまして、政治，歴史の勉強や夏季講座をたくさん設けています。

○栗山准教授

京都府立医大の栗山です。議論が各論にいつてしまっているのではないのでしょうか。最初に御挨拶あったように、今回は市民主体の健康づくりの展開をどのように進めるのかおおまかなポンチ絵を作る方が先ではないかということをご提案させていただきたいと思いますが、2つの軸がありまして、一つは京都市の健康づくりプラン第2次に栄養，身体活動，休養，歯，喫煙，飲酒ということで、プランの中で提案されているわけで、テーマ別に各世代を超えたアプローチをしていくのか、絞り方の話など、各先生方から出ていますが、世代を超えて、テーマ別での分野についてプロポーザルされているわけですから、そういう風にするというのが一つと、もう一つは、逆に世代を超えて、子どもから大人，高齢者それぞれ関わらず、例えば栄養を摂取するというような形とするのか、それとも世代別に子どもは子ども，などと今年は取り上げる，成人は成人で取り上げる，高齢者を取り上げる，など3つくらいに分けられるかもしれませんが、そういうターゲットを決めて、子どもにおける栄養，身体活動，休養，歯，喫煙，飲酒などと進めないと絞れないと思います。その縦軸をどのプランにとるのか，若しくは縦軸をどの世代にとるのか，どの程度，テーマ，世代までとるか，決めていけば，イメージが分か

りやすいのではないかと、という御提案です。

○中山議長

京都市、いかがですか。

○事務局（居内保健医療・介護担当局長）

まさに今おっしゃっていただいたような内容で、縦軸縦糸と言いますか、横軸横糸があったとして、京都市として御紹介いただいたような健康づくりのプランに絞ったテーマで、身体活動で始まるいくつかのテーマを設けております。特にその中でも我々としては、縦軸をプランとし、横軸として、各年代を通じて、年代に応じたものを入れた場合、例えば飲酒、喫煙など個別的なテーマになってくるので、そういうことで考えていくと、例えば身体活動、運動すること、食べること、各世代、年代に応じて、それぞれテーマがあろうかと思えます。そういう意味で体を動かすことと食べることを大きなテーマとして、それに年代の横軸を入れて、それぞれでどんなことができるのか、一つの構図みたいなものだと思っています。例えば幼い子どもたちにとっては、食生活、食習慣ということで、将来大人になって、生涯を決定付けることとなってきます。そのあたりについて、しっかりと歯を磨く、関係作りは大きなテーマだと思えます。一方、お年寄りになってくると、代謝も若い頃と変わってくる、食べ方についても違う食べ方になってくる。それぞれ食についてテーマが変わってくる。そのあたりをきちんと視野に入れて考えた場合に、各団体、それぞれ健康づくりを色んなテーマでやっていただいています。京都市では、よく「庁内融合」という言葉を市長がよく使います。いわゆる行政の縦割りを排して、違う領域に横串を刺して効果的に取組を進めようとしています。この健康づくりについても基本的には同じではないか。行政的には今まで例えば保健福祉局は保健のことをしている、一方で文化市民局では、体育振興などで歩くことや体を動かすことをやっています。別々にやっていけばいいという時代は過ぎ、これからはそれぞれの事業が掲げている各テーマを重ね合わせて、より効果的にやるために例えば別々の事業をどうクロスさせたらよいか、行政が考えていくべきです。同じように各団体で各領域で取り組んでいただいていることについて、広く市民運動組織という形で集まることによって、その中でお互いが新たな結び付きをして、色んな取組を進める、そういう風な会議になるのではないかと、という一つ思いがありまして、やはりお互いそれぞれの団体や、領域の人たちがどういう取組をしているのか、知ることは大事で、知った上でつながっていく。つながったうえで、それぞれが最終的に一人一人の健康づくり、行動する、そういう風な一連の行動変容につながるような機会をたくさん作ることもできたという思いがあります。そのときに、大きなポイントとして、コミュニティという言葉を使っていますが、一人ひとりが孤立してそういう取組をするよりは、地域であったり、職域であったり、あるいは自主的なグループ、団体で一緒に何か活動したり、行動

する人たちがいる中の方が、健康づくりの意識付けもしやすいだろうし、活動が継続的になるのではないかと考えて、各年代を通じてテーマを設けて食べることについて、コミュニティの力、仲間を作って取り組んでいく、そういう雰囲気づくりができないだろうか。全部あわせて大きな話となってしまいますが、意識を醸成するための一つの大きな活動として市民活動組織を立ち上げることができれば、という思いを持っているところでございます。長々と話しまして申し訳ございません。

○栗山准教授

今のお話をお聞きすると、子どもから大人まで地域をまたいでやるという形で、世代を問わない、ただ、もう少し絞った方が良いという議論が多数出ている中で、健康ということは何かから何まで健康にからめていくということですが、何かサブテーマ的なことを決めてやっていると、みんな集まりやすいと思います。その中で先ほどキーワードで出ていた栄養、身体活動についてある程度絞った形で初年度開始していただいた方がやりやすいのではないかと思います。横串を刺すのは分かりましたが、縦軸は何か決めた方が良いのではないのでしょうか。

○事務局（居内保健医療・介護担当局長）

一度に全部一緒にやるということではなくて、広い視野で実際に活動するのは、ある領域、ある年代に限定しての活動となるだろうと思うのですが、そういう風なものとながりながら、意識しながら活動いただける環境づくりが大事かと思います。

○京都府歯科医師会（岸本理事）

京都市の一市民として考えたときに、今の御議論は先々までを見越した議論だと思いますが、京都市民の皆様に対して、先々までの遠い目標と中間目標、当面の今年度の目標みたいなものを示せばいいのではないかと思います。先ほどから、世代別、分野別などのお話が挙がっておりますが、ある程度絞って提唱することによって、今年度は自分に関係ないようだが、来年度は自分に関係しそうなので参加してみようかな、などと思ってもらえるかもしれません。そのあたりの周知の仕方なども検討していただけると、参加しやすいかなと思います。

○中山議長

ありがとうございます。決して市役所で完璧な計画を決めて、それに市民がついていく話では全然ないと思います。市役所から出てきたこういった提案に対し、市民の中で議論し、こういうことができるんだと市役所の計画も変わって、私たちも変わると理解しております。色んな活発な意見をいただいてありがとうございます。

○京都市健康増進センター（板垣所長）

健康増進センターの板垣と申します。今までの御意見をお伺いして、健康づくり推進会議ということで、それぞれの立場から健康づくりに関する発言をしておられ、それぞれの活動を総合的に推進していくということでしたが、今日の議論の中では、健康長寿のまちの実現ということがテーマとなっていますが、もう少し具体的に京都市の健康寿命についてとか、その延伸に向けた取組が中心になってくるのではないかと思います。京都市の健康寿命の具体的な延伸に向けた取組の話が重要で、健康寿命は全国的にみても、低くもなく高くもなくということだと思いますが、具体的な健康寿命を少しでも延ばすといえますか、そういう具体的な取組があつて、それぞれの中で更に推進されるということがあれば、良いのではないかなと思いました。

○中山議長

数値目標が色んなことがあります。このような動きについて市役所はいかがでしょうか。

○事務局（志摩保健医療課長）

例えば、他都市では、「健康寿命を1歳延ばそう。」や「全国一を目指そう。」とか、目標を掲げて取組をされているところもございしますが、なかなか何をすれば、どういう結果に結びつくというところで、科学的な裏付け等が難しいものですから、スローガンのように全国一、1歳延伸を目指そうとか、場合によって、スローガンのように目標を定めていくことが参加いただく皆様にとって分かりやすいのではということがあるかと思えます。そういった御意見は、どんどんお受けしたいと思えます。厳密な意味での数値目標という風なものについて、事務局で方向性を定めていこうという考え方は今持っていない状況でございます。

○京都府栄養士会（岸部会長）

昨年厚労省の仕事をさせていただきました。件数は少ないのですが、在宅栄養ケアという事業をしました。その結果、在宅ケアをしなければならない方は、低栄養ということがあります。健康目標を目標とする場合、健康をつぶされた方に対する対応と、つぶさないようにする対応と、分けて考えていないと目的が違ってくると思えます。今、健康でいる方が将来ずっと健康に過ごしていくことを目指すなど、分けて考えないといけません。切り離しでなくて、区別する、今の対応、目先の対応、将来的な対応ときちんと考えていく。でないとごちゃごちゃになっていくのではないのでしょうか。健康をまず作る、子どもたちが作ることが基本で、成人、高齢期などは、健康を維持するためにどうすればよいのかなど、二本立てで考えていく方がよいのではないのでしょうか。つぶされた健康を持ち直すことはなかなか難しいのではないかと、作ることと維持するこ

と、分けて考えていく、いかがでしょうか。

○中山議長

貴重な御意見ありがとうございます。この点については、いかがですか。

○事務局（志摩保健医療課長）

健康寿命の延伸ということですので、平均寿命と健康寿命の間に元気でいらっしゃる方がいらっしゃるわけで、決してこのような方々を切り離すというわけではございません。取組、テーマについては、区別して、しっかりと考えていかななくてはならないと考えており、切り離すなどのことがないよう取り組んでまいりたいと考えています。

○中山議長

今回、この場での御意見の中で市役所を目指すところもより明確なものとなっていくのではないかと思います。

○京都府医師会（武田理事）

藤村の代わりに本日出席しました。前回の会議について内容を確認させていただきましたが、目的としては、今年秋にスタートアップのイベントをみやこめっせですということでもよろしいでしょうか。それとも今年は準備委員会を立ち上げて、来年春に継続的にやっていくもので、今年は記念的なものをするということでもよろしいでしょうか。

○事務局（志摩保健医療課長）

資料5のまとめということになります。本格的には来年度から市民運動組織、イメージ、仮称にはなりますが、これを正式に立ち上げて、次の議題資料6で御議論いただきます新規事業にも取り組み、大きな運動を大きなうねりとして取り組んで、来年度から本格的に取り組んでいきたいと思っています。それに向けて、今年度の段階では、この場にも検討・御意見をいただきながら、様々な検討を深めていきますとともに、具体的な準備段階での取組といたしまして、市民運動組織の準備会をこの秋に立ち上げていきたいと思っています。その準備会の立ち上げの契機、そのスタートとなりますイベントをこの秋頃にみやこめっせで開催したいと思っています。その内容も資料に記載しておりますとおり、準備会の設立を宣言しまして、あわせてお集まりの各団体の皆様にその決意表明をいただいたり、その他、健康づくりに関します体験コーナーを設けたりという、キックオフイベントをやりまして、その後、準備会としての活動を始めていきたい、それを来年度の本格的な取組につなげていきたいと考えています。その準備会につきましては、この推進会議の皆様にはぜひ準備会に御参画いただくとともに、より広く、来年度、本格的に設置いたします市民運動組織に向けて、賛同をいただく輪を広げ

ていただく、周囲に呼び掛けていただくことをお願いしたいと思っています。長くなりましたが、以上です。

○京都府医師会（武田理事）

先ほどからも歯科、栄養士会の先生方がおっしゃっているとおり、別の所属が開催するイベントとは別のイベントとして開催するなどやっており、医師会としては各種団体の行事にそれぞれに行きまして、色んなブースを出展しております。それが医師会主催になるのか、あるいは民間のどこかの病院でやるのか、どこかに入らせていただくのか、そういう意味で返事はできないが、大きなイベントということであれば、何かの形で協力させていただきます。

○中山議長

イベントの話が出ましたが、もう8月の末ですから、今日なぜ日程が出ていないのか。

○事務局（志摩保健医療課長）

日程について、至急固めて御案内をさせていただきたいと考えています。今御指摘いただきましたとおり、この秋に健康づくりに関係するイベントについては、これまでからいくつか開催していただいております。高齢者の方のテーマを中心に開催しています「市民すこやかフェア」、11月28、29日が今年度のすこやかフェアの日程になっておりますが、例えばこのイベントの2日目に先ほど居内が申し上げた「融合」と言う形で、一緒に開催していくというのも一つの考え方かなという風に事務局では検討をしているところでございます。

○事務局（居内保健医療・介護担当局長）

今申し上げたのは、我々としては、いわゆる市民団体、色々な領域など、活動されている団体の皆様が一つの場所に集まって、これからみんな色々知恵を出し合って、連携して市民の健康づくりを盛り上げて、一緒に活動していきませんかという最初の集まりの場という御理解をいただきたいのです。「健康づくりフェスタ」をやるという意味ではないですが、場所としては、一つの案ですが、「すこやかフェア」の場にて連携させていただいてやるという方法も考えられるのではないかと、そういう形で11月29日の提案をさせていただいたのですが、健康フェスタを別個やるということではないです。市民がたくさん集まる場所で、この場に集まらせていただいている団体の皆様を中心となって、呼び掛けをしていただいて、更に健康づくりの輪を広げましょう、そういう風な集まりをそこでやりましょう、やりませんか、そういうことです。

○中山議長

それでしたら、パネルディスカッション、フォーラムに近いものですか。

○すこやかクラブ京都（川島常務理事）

すこやかフェアの実行委員会では議論するのですか。すこやかフェアとは別ですか。

○事務局（居内保健医療・介護担当局長）

すこやかフェアの隣でやらせていただきたいなと思っている。イベントとしては、別です。2日目の中で一部の時間帯で少し邪魔させていただきたいと思っています。今そういう方法も検討しているということでございます。

○すこやかクラブ京都（川島常務理事）

こちらの総会で市長が挨拶されまして、盛んに健康寿命を延ばそうということが盛り込まれています。本当に健康寿命を延ばすということは、年代的にはどこかの層にターゲットを当てていかないと健康寿命は延びない、健康寿命を延伸するための具体性が無い、もう少しターゲットを絞って、京都市として、行政として、どういう役割を果たしていくのか、もう少し明確にしてほしいという要望です。我々はどう動いたら良いのか分からないです。

○事務局（居内保健医療・介護担当局長）

今御指摘いただきました内容ですが、当面の重点的な取組、総合的な観点で言うと、2つあるかと思います。以前の議論で言うと、予防的な観点が御議論ございました。それぞれのお話しに関わり、健康寿命を延ばしていこうと、そこだけを見ると、今京都市の男性、女性の健康寿命、実際の平均寿命はいくつなど、そういう議論になりがちで、その差を縮めていこうとことを考えていくと、高齢者だけのテーマに聞こえていくのですが、当然その話というのは、これまでの健康の在り方が結果として出てくる話で、決して高齢者だけのテーマではなくて、幼児期、壮年期、高齢、それぞれ健康のテーマがあり、それをしっかりとつなぎ、高齢になっても健康で長生きできるように、そういうようなライフスタイルとして見ていきたいと思っています。その中で高齢者については、一人一人、健康寿命を延ばす、高齢者の中でもテーマとして共有していく必要があると思っています。健康に歩くことが重要なので、歩きましょうと言っても、幼児期、壮年期で意味合いが違ってきます。そういう年代に応じた、例えば歩くこと、運動することについて、しっかりとしたものの方を出していく。そのために色んな知恵をお借りして、進んでいかななくてはいけないと思っていますところでは。

○中山議長

私事ですが、自殺対策でも京都市の委員をやっており、自殺の方は2割削減を目標にし、大体それが達成されてきた、もしそれをやるとなると、数値目標を作って、ロードマップを作って、中間目標、評価して、修正していく、といったことをやっていく。それなりの形にはなるけれども、今回の京都市の場合は、そういった形でなく、多様性、可能性のことを考えて、健康寿命という一つの価値として、色々な取組を行うということにはよく理解できました。ただし、もっとフォーカスを絞った方が良いという意見も非常に重要であると感じております。

続きまして、新規事業について、事務局から説明をお願いします。

【新規事業等について】

○事務局（濱口保健医療課課長補佐）

それではお手元の資料6「新規事業等について」を御覧ください。

まず、健康長寿のまち・京都の実現に向け、市民ぐるみでの健康づくり活動を積極的に展開するための仕組みづくりといたしまして、来年度以降に実施いたします新規事業について、検討を進めているところでございます。

来年度の新規事業に関する予算について検討し始めた時期でもありますので、現状での考えをお示ししております。

まず1の取組内容について、先ほど御覧いただいたところですが、前回推進会議でも御報告しましたとおり、(1)として市民の皆様が健康づくりの自覚を高める気づきの機会の提供、健康づくりの活動に参加しやすい多様な機会の創出の方策を検討しております。

(2)として市民主体の健康づくり活動が地域との関わりの中で展開されますよう、誰もが取り組みやすく、効果の実感が得やすいテーマに重点を置いた取組を展開したいと考えております。

別紙ですが、先ほど志摩から説明しましたとおり、1点目に「しっかりと食べて体を動かす。」ということで、とりわけ健康づくりに関心が薄い市民の方を含めて、全ての市民の方が取り組める制度設計をしていこうと、なおかつ食文化に関しまして、京都ならではの取組ということで、視点を設けて考えております。

身体活動に関しましては、ウォーキングを始め、様々な運動、多様な機会を創出することを考えております。

2つ目として、各世代に応じた取組ということで、先ほども御議論がございました、壮年期、高齢期を主な対象にしつつ、一方で乳幼児期から正しい生活習慣の形成をしっかりと推進していこうと考えております。

壮年期、高齢期にはメタボ、ロコモ等の生活習慣病対策、認知症対策、高齢期は介護予防の取組ということで、切れ目なく推進していこうということで考えております。

なおかつ定期的な健康診断等を受診いただく中で、早期発見、早期治療につなげていこうということです。

もう1点の視点が地域の交流の中での実践ということで、健康であればそれでよいというわけではなく、地域の交流の中で楽しみつつ健康づくり活動を展開していこうと、それが地域の輪となりまして、各行政区単位、地域単位の活動展開にしていこうと考えております。

資料6の1ページ目に戻りまして、取組の視点として、京都が有する歴史、文化、観光等、様々な資源がございますので、これらを有効活用する中で京都ならではの取組が展開されるよう、仕組みづくりの検討を進めているところでございます。

お示ししておりますが、市民主体の健康づくり活動が継続的に展開されますよう、1つ目に「事業効果の見える化」というところで、例えば運動等に伴う効果を測定し、例示するという手法を考えていこうと。

2つ目に「健康づくり活動の動機付け」ということで、様々な機会、場面を通した活動の中でインセンティブをしっかりと考えていこうと考えています。

3つ目に、オール京都で活動を推進していくということで市民お一人お一人の意識醸成を図りつつ運動の輪、コミュニティを広げていく。コミュニティの構築ですが、先ほど申しました、この活動が地域とのかかわりをしっかりと目指す中で、実践されるということで、地域コミュニティの活性化につなげていこうと考えております。

取組の視点としまして、現在、市の事業化に向けて、制度設計、検討を進めているところでございます。市民運動組織の立上げ、健康づくり推進会議でもこういった視点が必要ではないか、こういったことがあればより有効な取組にならないかなどの御意見をいただけたら、今後助かると思っているところでございます。

事務局からは以上でございます。

○中山議長

御説明ありがとうございました。具体的な事業実施に向けて予算要求されていくかと思いますが、いかがでしょうか、これは単年度事業ということでしょうか。

○事務局（濱口保健医療課課長補佐）

28年度からの事業の実施で考えております。

○中山議長

基本的には、1年ですよね。

○事務局（濱口保健医療課課長補佐）

これまで行政が主体としての事業を検討してまいりましたが、健康づくり活動に関しては、市の予算あるなしにかかわらず、継続いただくものですので、市の事業というのは、健康づくり活動、主体的な活動展開に当たり、それを支援する枠組みを構築してい

く、そういった中で京都市の事業化に関わらない形が望ましいと考えています。

○京都市保健協議会連合会（山内副会長）

健康づくりの動機付け、インセンティブというのはどういうことですか。説明をお願いします。

○事務局（濱口保健医療課課長補佐）

何らかの一定の目標達成したものについては、しっかりと認定していくということで考えています。

○京都市保健協議会連合会（山内副会長）

京都市は何でもインセンティブを使っていますが、この言葉はよろしくないと思います。何かものを提供するという意味で捉えられたりするので、そのあたりしっかりと抑えてほしいと思います。

○中山議長

市の立場からすると、インセンティブというと、鼻の先に人参を付けて躍らせていると感じます。表現一つとっても大事です。

○京都府歯科医師会（岸本理事）

京都らしいというのは大事だと思いますが、歴史、文化、観光など様々な京都らしさがある中、その具体性が重要だと思います。京都マラソンは初年度から回数を重ねるごとに、走りやすく、かつ観光地が見えるように、バージョンアップしていている。健康づくりに関しても、食であれば京野菜、歩くことであれば名所・旧跡がありますし、そういったところとどのように連携するかによって、京都らしさが出てくると思います。しかし、言い換えれば京都らしさが出てこないということも考えられ、他都市でやっても同じという内容になってしまうと意味がないと思います。京都らしさについては、歯科はなかなか活躍できませんが、京都市の一市民としての一つの意見です。

○中山議長

先週地蔵盆がありまして、京都大学の中で地蔵盆やっています。今年、担当をやっておりまして、担当が10年に1回回ってくるのですが、秘書がお地蔵さんの顔を書いたりしています。死んだ命に対する畏敬の儀礼として非常に大事だと思います。送り火もそうだと思います。東京から来た人間ですが、素晴らしいと思いました。

○京都市PTA連絡協議会（岡副会長）

京都市PTA連絡協議会の岡千栄子と申します。

先ほどからのキックオフイベントと今回の新規事業等についてですが、内容的に一緒のように感じて、特に資料6の3、「オール京都で健康づくり」というところで、市民主体ということで、最初でも「市民主体で健康づくり」ということですが、例えば毎年イベントを開催していきましょう、そして来年度のために話し合いましょう、でしたら簡単なことなんです、これがキックオフイベント、景気付けのイベント、決意の場かと思いますが、それから展開していくことですが、今度皆様で考えていきましょうということですが、どういう組織をどういう風に進めていくのかが本当に分かりにくいと思いつつ、聞いていました。キックオフイベントに対して、オール京都で健康づくりというサブタイトルとかなら分かって、やりやすいと思いますが、この2つに関しての違い、最初の方はとりあえずイベントして、みんなでやりましょう、イベントに向けて内容をつめる、新規事業については、28年度から取り組んでいきましょう、この2つを分けているきっちりとした理由を教えてください。

○中山議長

事務局、いかがでしょうか。

○事務局（居内保健医療・介護担当局長）

この新規事業、読んでいただいて、抽象的にしか書けないという事情は、要は一つ一つ、動機付けにしても、具体的な核をお示ししていないので、分かりにくいということになろうかと思えます。

他都市で色々な取組が始まっているところもあります。例えば、ウォーキングマップなど、市民に挙げていただくような機会を作っていただき、それを促す取組、例えばポイント制、ラジオ体操などはんこを押していただくことをしていましたよね。そういう形で機会を増やしてまいりたい。

例えば、全世代、全地域で実施できるようなモデル事業、リーディング事業と呼ぶ、全体を引っ張っていく事業をこの中で作り上げていきたいと思っています。たくさんなく、3つ4つもあれば、市民には「京都市で進めていく事業」と認識いただき、健康づくりとか何か一つイベントをして参加して達成した気分になる、一人一人の日々の取り組んだ結果、ずっと継続的にやっていただくことが必要です。そういう風な部分がここにお集まりの団体で、広報活動など様々な形で今までの取組を進められるかと思えます。

その取組を進めるに当たっては、それぞれの団体の中だけで考えていただくのではなく、この地域ではこのようなことをされているよ、という知恵を出し合って、交流したり、連携したりする場を考えております。

こういう風なことを日々進めていくことがよりスムーズに、効果的にそういうネット

ワークづくりをしようかと思っています。同じことを一斉にやるということは、そんなに多くは考えておりません。日々のことですから、それぞれの団体に1年間を通じて活動していただくことが重要です。それはみんなと同じことをやっていくこととは違います。

秋口にキックオフイベントというのは、ばらばらでやる、それだけでなく、色々な情報を共有したりするそういうネットワークの場を作りましょうという場として、目標として、11月29日に集まる場を作りませんかということです。そのため、新規事業とは違うもので、新規事業の資料が抽象的になってしまい、イメージがしづらかったと思います。

○京都市PTA連絡協議会（岡副会長）

キックオフイベントに対しては、ネットワークを作りましょうということで、今までPTAの中でも食、健康づくりについて色々なことをやってきましたが、そういう情報を提供する場として参加して、ああいうことやっているなら、子どもらもやる必要があるということを持ち帰る場ということによろしいでしょうか。後々、継続してみたいということはないということによろしいでしょうか。

○事務局（居内保健医療・介護担当局長）

これから作ろうとしている組織には、参画いただいた団体には、市全体で取り組んでいる健康づくりに関する様々な情報提供をさせていただいて、隅々まで知ってもらい、広報活動的なことをやらせていただこうかと思っています。それは紙の媒体か、あるいはもう既に存在するメディアを使うかなど、知っていただくための新しい取組を進めてまいりたいと考えております。

○京都市PTA連絡協議会（岡副会長）

ありがとうございました。

○中山議長

他に御質問等いかがでしょうか。かなり活発に御意見いただけたかと思えます。事務局に進行をお返ししたいと思います。

皆様におかれましては、円滑な議事進行に御協力いただきまして、ありがとうございました。

○事務局（志摩保健医療課長）

ありがとうございました。議長、円滑な議事進行をありがとうございました。活発な御議論を引き出していただき、ありがとうございました。また、各団体の皆様も活発な

御議論ありがとうございました。以上で予定の議事を終了させていただきますが、事務局から1点だけ連絡させていただきます。

○事務局（山内保健医療課担当課長補佐）

室内に掲載しておりますポスターについて、御紹介させていただきます。

厚労省から送付がありました、健康増進普及月間のために作られたポスターです。

本日御参画いただいております皆様に、よろしければお持ち帰りいただき、それぞれの部署で普及啓発に御協力いただきたいと思います。健康増進月間ですので、特に生活習慣病におけます、一次予防についての知識などを実践していきましょうといった投げかけの普及啓発のポスターでございます。今、3種類しか用意しておりませんが、検診用の1枚を加えまして、4つの領域について普及啓発を進めましょうということで準備させていただきました。

お帰りによろしければ、お持ち帰りください。郵送でも対応させていただきます。

○事務局（志摩保健医療課長）

是非可能な範囲で御協力いただけましたらと思います。よろしくお願い申し上げます。それでは、本日の結びとして、保健福祉局医務監の谷口から一言御挨拶を申し上げます。

【閉会の挨拶】谷口医務監

京都市保健福祉局医務監の谷口でございます。本日は大変活発な御意見をいただきまして、誠にありがとうございます。新たな市民運動組織、新規事業の具体化ということで様々な御意見をいただきました。

京都市の方針として、「オール京都で市民ぐるみの運動」ということで組織を立ち上げたいということで、様々な御意見を賜りながら進めていきたいと考えております。

健康寿命に関して、数値目標については、何をすればどうなるのかなど、高血圧や糖尿病の予防を推奨していけば、健康寿命がおそらく伸びるわけです。医療の側面と違った形での市民ぐるみの活動ということで、京都市ではまち美化活動など、市民ぐるみ運動など進めているわけですし、私も月曜日の朝、地下鉄の駅を降りると、近くの会社の方が朝から総出で門掃きをされております。そのような市民ぐるみでの活動、それを健康づくりということを頭に置きながらどういうことができるのか、それが今後継続して行うべきものでございますので、今後どのような形で進めていくのかなど、皆様からの御指導御鞭撻をいただきながら、進めてまいりたいと思います。

本日は貴重な御意見を賜り誠にありがとうございました。今後ともよろしく願います。

○事務局（志摩保健医療課長）

ありがとうございました。それでは以上をもちまして、平成27年度第2回京都市民健康づくり推進会議を終了とさせていただきます。次回の会議の日程等については、また改めて御連絡させていただきます。今後とも御協力よろしくお願い申し上げます。

本日は誠にありがとうございました。